

**製品名: Rsk-1/2/3/4 (リン酸化 Ser221/227/S218/232) ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab05394**

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	85kDa

## 抗原情報

遺伝子名	RPS6KA1 RPS6KA1; MAPKAPK1A; RSK1; Ribosomal protein S6 kinase alpha-1; S6K-alpha-1; 90 kDa
別名	ribosomal protein S6 kinase 1; p90-RSK 1; p90RSK1; p90S6K; MAP kinase-activated protein kinase 1a; MAPK-activated protein kinase 1a; MAPKAP kinase 1a; MAPKAP
遺伝子 ID	6195/6197/6196/27330
SwissProt ID	Q15418/P51812/Q15349/Q9UK32
免疫原	抗血清は、ヒト RSK1/2/3/4 由来の Ser221/227/S218/232 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 191-240

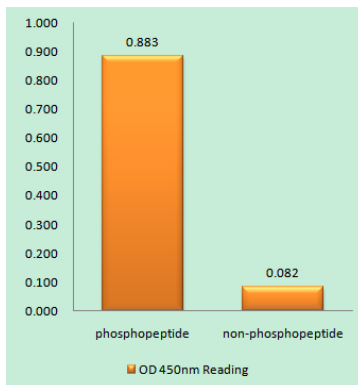
## 背景

リボソームタンパク質 S6 キナーゼ A1 (RPS6KA1) ヒト この遺伝子は、セリン/スレオニンキナーゼである RSK (リボソーム S6 キナーゼ) ファミリーのメンバーをコードしています。このキナーゼは 2つの非同質なキナーゼ触媒ドメインを有し、マイトジェン活性化キナーゼ (MAPK) シグナル伝達経路のメンバーを含む様々な基質をリン酸化します。このタンパク質の活性は、細胞の増殖と分化の制御に関与していることが示唆されています。異なるアイソフォームをコードする代替転写スプライスバリエントが特徴付けられています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。 ,注意: ここに示す配列は、Ensembl 自動解析パイプラインから取得したもので、暫定的なデータとしてお考えください。 ,補因子: マグネシウム。 ,酵素調節: スレオニンおよびセリン残基の多重リン酸化によって活性化されます。 ,機能: セリン/スレオニンキナーゼは、成長因子およびストレス誘導性の転写因子 CREB の活性化を媒介する役割を果たす可能性があります。 ,PTM: 活性化プロセスの一部として、Ser-380 が自己リン酸化されます。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。 S6 キナーゼサブファミリー。 ,類似性:AGC キナーゼ C 末端ドメインを 1 つ含む。 ,類似性:タンパク質キナーゼドメインを 2 つ含む。 ,サブユニット:静止細胞において ERK1 または ERK2 と複合体を形成する。 分裂促進刺激により一時的に解離する。 ,

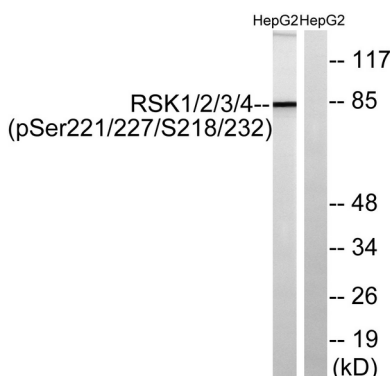
## 研究分野

血管新生を制御する; インスリン受容体; B 細胞受容体; AMPK

## 画像データ



RSK1/2/3/4 (リン酸化 Ser221/227/S218/232) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



EGF 200 ng/ml 30μl 処理した HepG2 細胞ライセートの RSK1/2/3/4 (リン酸化 Ser221/227/S218/232) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。